

砂糖（原料作物・粗糖）の流通の取組

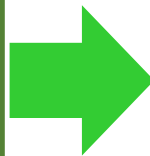
砂糖（原料作物・粗糖）流通の課題と今後の取組

原料作物・粗糖流通の特徴

北海道の原料作物（てん菜）

北海道で栽培されているてん菜は、畑作における輪作体系を構成する欠くことのできない重要な作物。

収穫されたてん菜は、各農家から直接、製糖工場までトラックにより輸送され、粗糖に加工されている。



課題

- トラックドライバー不足の進展により、圃場から製糖工場までの輸送力の確保に支障が生じるとともに、収穫ピーク時に製糖工場への輸送が集中。
- 運賃コストが増加傾向にある中、ドライバー不足等によるコストアップが懸念され、これまでと同じ輸送方法では、物流コストのさらなる増加の可能性。
→さらなる輸送の効率化が必要。

鹿児島県・沖縄県の粗糖

鹿児島県と沖縄県の各島で栽培されているさとうきびは、自然災害に強い基幹作物。

各島の製糖工場で砂糖の原料となる粗糖に加工され、各島から本州等の消費地近郊にある精製糖工場までの遠距離・海上輸送し、砂糖に加工されている。

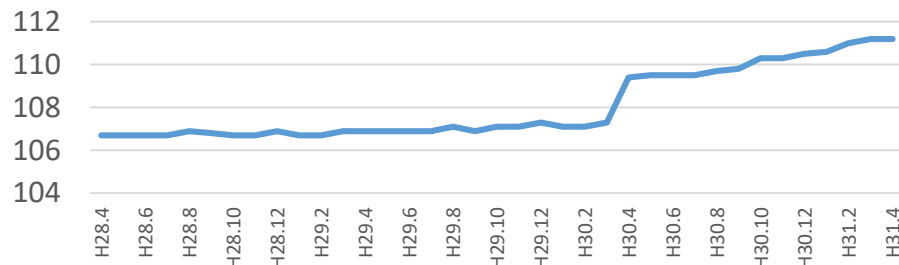


- 鹿児島県と沖縄県の各島で生産される粗糖は、1島ごとに内航海運で精製糖工場まで遠距離輸送。
- 運賃コストが増加傾向にある中、船員不足等によるコストアップが懸念され、これまでと同じ輸送方法では、物流コストのさらなる増加の可能性。
→さらなる輸送の効率化が必要。

原料作物(てん菜)の集約輸送

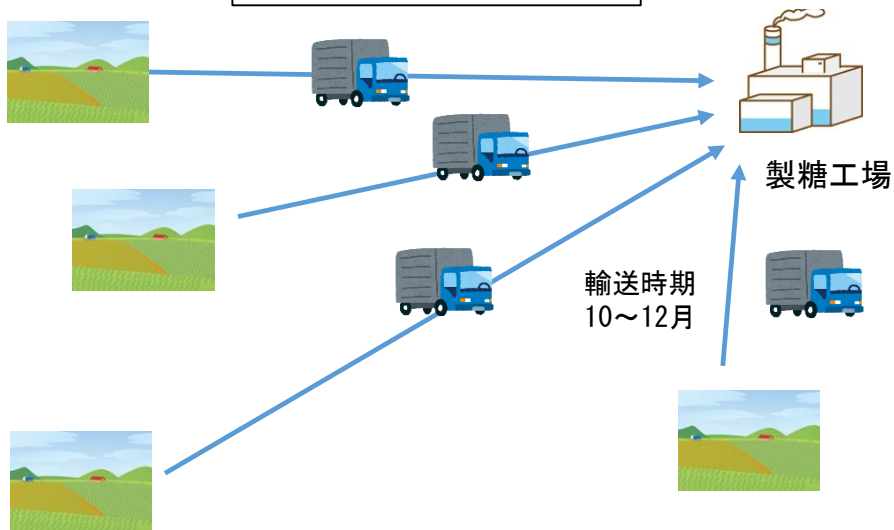
○ 各農家から収穫されたてん菜を一時的に貯蔵施設に集約・保管した上で、そこから製糖工場に計画的に輸送するなど、さらなる輸送の効率化を図ることができないか。

貸切貨物輸送の価格指数の推移(H22を100とする)



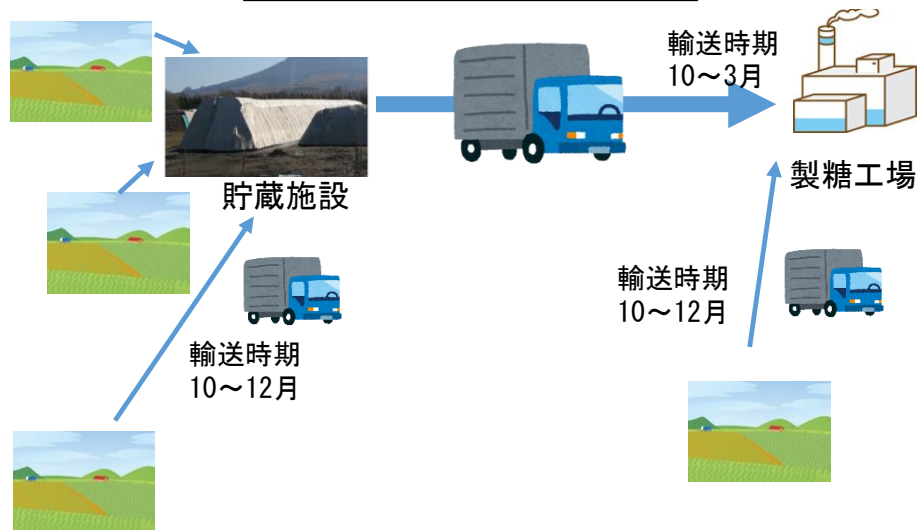
出典: 日銀「企業向けサービス価格指数」

現在の輸送(イメージ)



製糖工場は、収穫開始(10月)から翌年3月まで操業しているが、降雪前に収穫・貯蔵を終わらせるために、短期間(10~12月)で産地から工場への遠距離輸送を実施。このためのトラックを相当量確保する必要

効率的な輸送(イメージ)

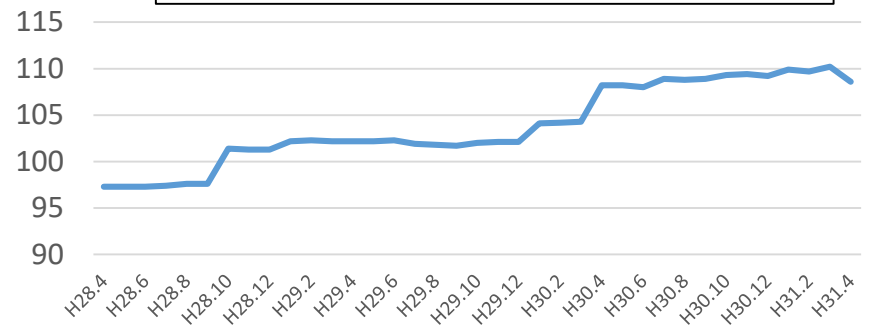


工場から遠い産地には一時貯蔵施設を整備し、収穫時期の輸送を短距離化してトラックの台数を削減。貯蔵後は輸送期間を延ばすことにより1日当たりのトラックの台数を削減

粗糖の共同輸送

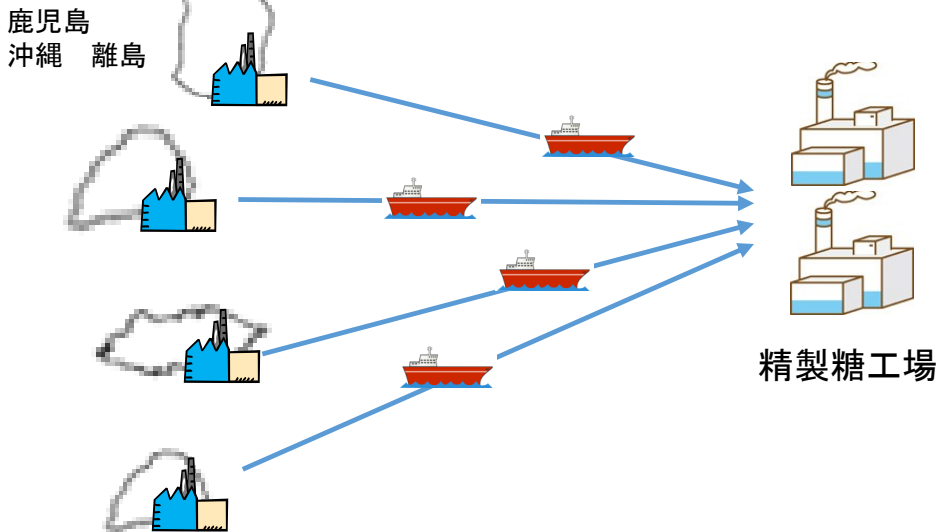
○ 今後、粗糖の輸送については、一つの船で複数の島を経由する共同輸送を行うなど、さらなる輸送の効率化を図ることができないか。

内航船輸送の価格指数の推移(H22を100とする)



出典：日銀「企業向けサービス価格指数」

現在の輸送(イメージ)



効率的な輸送(イメージ)

